

請 願 文 書 表

(教育委員会)

受 理 番 号	1 2 2 4	受 理 年 月 日	令 和 5 年 2 月 10 日
件 名	小学校のような全員制の中学校給食の実施		
要 旨	<p>コロナウイルス感染が長期化することで、経済的な格差は広がりをもっと大きくし、家庭生活の困窮と子供の貧困をより深刻なものにしている。また、30年余り労働者の賃金は停滞し続けているうえに、世界的な情勢不安によって物価やエネルギー資源は高騰し、人々の生活は一層苦しいものとなっている。</p> <p>このような状況下、生活に困窮する家庭では、まず食費を節約せざるを得ず、子供に3食与えられず、朝御飯を食べていなかったり、昼食も菓子パン一つだけだったりという子ども学校では決して珍しくない。そんな中、今、給食が豊かな成長と学習活動を保障するだけでなく、危機的な物価高の中では、生命維持の役割を担うものとして再認識され、社会保障として重要となっている。</p> <p>京都市の中学校給食は、注文をした生徒に対してお弁当が提供される。注文する生徒は全市で約30パーセントである。全国では、9割以上の中学生が既に中学校給食を食べている。後れていた自治体でも、近年全員制の中学校給食の実施に向けて急速に整備が進んでいる。政令指定都市の中にあっては、中学校給食を実施していないのは京都市と、あと僅かな政令市のみとなっている。もはや全国では当たり前となっている全員制中学校給食である。</p> <p>については、育ち盛りの中学生にも発育と命の保障のためにも、小学校のような全員制の中学校給食を全ての市立中学校で実施することを願う。</p> <p>なお、本請願について、1,000筆の署名を添える。</p>		
請 願 者			
紹 介 議 員	河合ようこ、くらた共子、ほり 信子、鈴木とよこ		
付 託 委 員 会	教 育 福 祉 委 員 会		